

## [話題提供] 琴川ダム貯水池におけるコクチバスの駆除

### ～リバウンド対策とライトトラップの活用～

[要約] 繁殖期に刺網の枚数を従来の約 1.5 倍に増やし駆除活動を実施し、繁殖前の成魚を捕獲することに注力した。また、仔稚魚のモニタリングと駆除を目的としてライトトラップを産卵適地に最大 8 カ所設置した。その結果、成魚を効率よく捕獲し、繁殖は確認されなかった。これらの結果から、繁殖期の集中的な刺し網は現状況に適した手法であり、ライトトラップを用いたモニタリングは繁殖の確認に有用であると考えられる。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・谷沢弘将

[分類] 研究・参考

---

[課題の要請元] 山梨県漁業協同組合連合会、峡東漁業協同組合、食糧花き水産課

### [背景・ねらい]

琴川ダム貯水池において、令和元年に特定外来生物コクチバスの定着が確認され、令和 6 年まで積極的な駆除を実施している。令和 5 年に個体数が爆発的に増加するいわゆる”リバウンド現象”が発生した。これはコクチバス個体数が減少したことにより、仔稚魚が成魚に捕食されにくくなり、仔稚魚の生残率が高くなったためと推察された。個体数を減らすことに成功した現状況においては、新たなステップとして一度も繁殖を成功させない駆除を実施する必要がある。このため繁殖期の集中的な駆除を実施するとともに新たにライトトラップを導入し、その効果を分析する。

### [成果の内容・特徴]

1. 繁殖前のコクチバスの捕獲を第一の目的とし、5~7 月に刺し網を延べ 281 枚使用し（過去平均 187 枚）、駆除活動を行った（全長 20cm 以上のコクチバスは繁殖期の 6・7 月付近（水温 11~18℃）に捕獲されやすいことがこれまでの研究でわかっている）。その結果、刺し網で成魚を 37 個体捕獲した。繁殖期後（8,9）月と比較すると捕獲効率は 2 倍以上であった（表）。
2. 令和 6 年度の駆除個体数は刺し網 44 個体、水中銃 3 個体の計 47 個体であり、過去最低であった（図 1）。また 1 歳魚が捕獲されなかったことから前年の繁殖はなく、令和 5 年度は駆除を開始してから始めて繁殖を阻止できた年と考えられる。
3. 繁殖期の集中的な駆除は、繁殖前にコクチバスを駆除できるため、リバウンド現象が発生しやすい水域の駆除方法として効果的である。
4. 繁殖の有無の確認と、繁殖された際の仔稚魚の駆除を目的とし、繁殖適地 8 カ所にライトトラップを設置した（図 2）。全ての地点において仔稚魚は捕獲されなかった。
5. 従来のダイバーによる目視調査においても、産卵床や仔稚魚は確認されなかったことから、本年度、繁殖した可能性は低いと予想される。ライトトラップによるモニタリングが加わったことにより、二重の視点から、より精度の高いモニタリングが可能となった。
6. 琴川ダム貯水池のコクチバスの個体数は、大幅に減少していると考えられるが、本種の繁殖力は極めて強いいため、今後も駆除の継続が必要である。

[成果の活用上の留意点]

特になし。

[期待される効果]

コクチバスによる漁業被害を低減することができる。

[具体的データ]

表 刺し網によるコクチバス捕獲個体数

	捕獲個体数	使用枚数	刺網1枚あたりの 捕獲個体数 ①	①について 対繁殖期比 (%)
繁殖期 (5~7月)	37	281	0.13	-
繁殖期後 (8・9月)	7	117	0.06	45.44

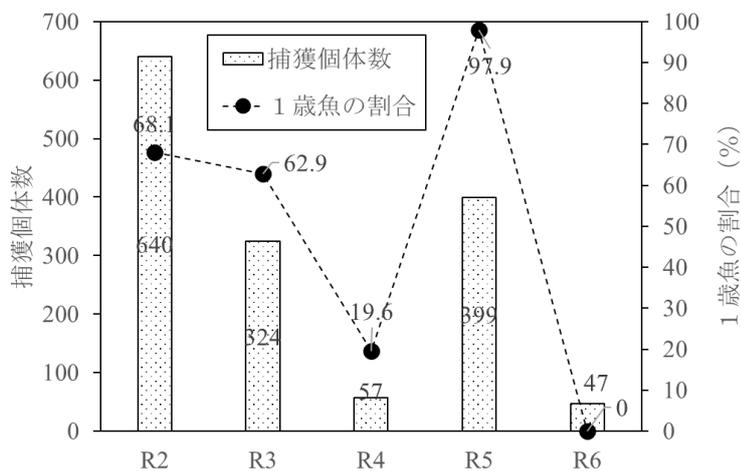


図 1 年毎のコクチバス捕獲個体数

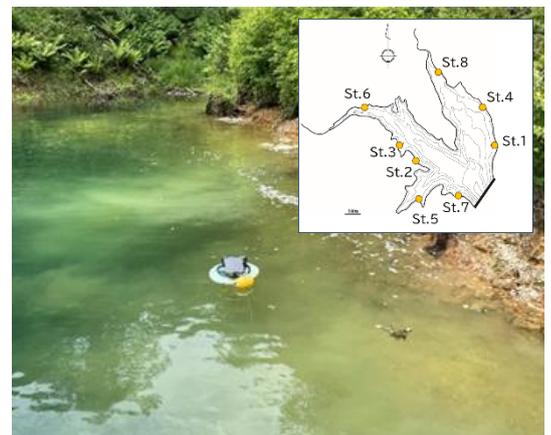


図 2 ライトトラップの設置地点と設置の様子

[その他]

研究課題名：コクチバスの効率的駆除技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2021 年度～（プレ研究 2019、2020 年度）

研究担当者：谷沢弘将、三浦正之